

## 第三者評価結果入力シート（児童自立支援施設）

種別	児童自立支援施設
----	----------

### ① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

### ② 評価調査者研修修了番号

sk2021096

s2021052

神機構-1090

### ③ 施設名等

名称：	神奈川県立おおいそ学園
施設長氏名：	菅野 大史
定員：	29名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

#### 【施設の概要】

開設年月日	1903/12/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	神奈川県
職員数 常勤職員：	35名
職員数 非常勤職員：	25名
有資格職員の名称（ア）	児童自立支援専門員
上記有資格職員の人数：	33名
有資格職員の名称（イ）	児童生活支援員
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	職業指導員
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	36室
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

### ④ 理念・基本方針

子どもが安心できる生活を提供し、社会の担い手になる子どもの健全育成に努めます。

- (1) 子どもの健やかな心身の育成
- (2) 子どもの「生きる力」と「やさしさ」の育成
- (3) 子どもの基本的人権の擁護

#### 基本方針

- (1) 人権に配慮した安心できる生活の保障
- (2) 自立支援
- (3) 専門的支援の推進
- (4) 安全と環境に配慮した園運営
- (5) 地域に開かれた学園づくり
- (6) 健康管理
- (7) 食育

### ⑤ 施設の特徴的な取組

〇様々な課題を抱えた子どもたちの育てなおし、自立生活の支援のため、入所時には子どもの入所式を行っている。入所式には、児童相談所のケースワーカーや心理司、前籍校の担当教員、家族、園幹部職員、寮担当者などが参加している。なぜここで生活するのか、目標をもって生活していくことを確認し、参加者から応援のメッセージをもらい、一人ではないことを感じてもらっている。入所時から生活の目的を自覚し、どのような自分になるのかを意識して、園での生活に入るようにしている。

〇原則、子どもたち全員を対象に、入所に至った課題（入所理由）の振り返りや、強みと弱みの自己評価、退所までの具体的な目標や将来の計画などを考えてもらい、「おれの自立計画」としてまとめている。作成した「おれの自立計画」は、家族や児童相談所などが揃った場で、子ども自身が主体となって発表し、支援する家族や関係者と内容を共有している。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2024/4/26	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2025/2/10	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和3年度（和暦）	

⑦総評

〇おおいそ学園は、「不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童」の育てなおしと、課題解決を含めた自立を支援する施設として、小学生から18歳までの30名弱の男子を支援している。子どもたちは三つの寮で生活し、小・中学生は園内の小・中学校の分校で学習し、高等部の子どもは就労支援や社会体験学習、学習支援を受けている。

〇三つの寮はそれぞれ独立した棟になっており、一つひとつの寮は職員室を挟んで二つのウィングに分かれている。子どもたちの居室は、全室個室となっており、プライバシーが保たれている。居室にはベッドや机、クローゼットが備えられており、子どもの好きなぬいぐるみなどの私物が置かれている。

〇よく働き、よく食べ、よく寝ることを生活の基本に置いている。平日の昼食は、園内の学校から直接、食堂に集まって全員で食事を摂り、食後一旦寮に戻り午後から再登校している。朝、夕は、子どもたちが厨房から副食を寮に運び、寮で子どもたちが炊いたご飯で食事している。栄養士がバランスよい献立を立てているが、「うMyメンプロジェクト」として、各寮で食べたいメニューを考え、栄養士に提出して献立に入れてもらい、楽しんでいる。また、月1回誕生会を開き、誕生者を祝いながら特別なメニューを提供している。さらに、日本の地図を貼り出し、その県の名物献立も提供し、全国の料理を制覇する楽しみを作っている。

〇今後の自立した生活を目指し、規律ある生活の中で、日課が決められている。起床後のラジオ体操、朝のマラソン、清掃、園内の分校での学習、園内での農作業など、一日のプログラムが決められている。そのような生活の中で規律を守ること、約束を守ることなどを体験している。また、季節に合わせて、野球や卓球、水泳、陸上クラブのいずれかを行い、ルールなどを体験している。月1回の買物訓練、高等部の子どもはお寺清掃のボランティア、アルバイトなどで、社会体験を行っている。

〇野球や卓球、水泳、陸上のクラブ活動があり、季節に合わせて、すべての子どもが同じクラブに入って活動している。クラブでは、楽しさと同時に、礼儀や挨拶、ルールを守ることなどを体験している。園内の敷地は、東京ドーム2.7個分の広さがあり、大きなグラウンドやプール、体育館を備え、スポーツ活動には十分な広さがある。

〇「支援のガイドライン」に、子どもへの関わり方を明記し、全職員に周知徹底している。子どもたちへの言葉使いや態度は丁寧であり、不適切といわれる体罰や強要、無視などは行われていない。園の敷地が広いと、死角が多く、子どもたちの動きには常に複数で確認できるように、職員の配置に配慮している。子どもがパニックになった時などに、職員が叩かれ、怪我をしたり、暴言を言われたりすることがある。職員は子どもの行動だけで判断せず、行動の裏に何があったのかを受け止め、落ち着くまでしっかりと向き合っている。子どもへの対応で疲弊してしまう職員もおり、職員のケアに心理士が関わることもある。

〇子どもの行動として、暴力や暴言、無断外出、パニックなどが見られることがある。行動上の問題は子どもの心の叫びであり、何で苦しんでいるのかを子どもに寄り添って対応している。無断外出などのルール違反の場合は、毎日の引継ぎで状況を報告し、臨時の権利擁護委員会を開催して、行動制限を行う場合がある。その後、本人と面接を行いながら、今の気持ちを振り返り、今後どうしていくかを作文にまとめるなどの指導を行っている。行動上の問題が起きる時は、子どもの心の中で何らかの思いが爆発した時であるため、思いを受け止め、その思いをどのように解決していくか指導を行っている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度は、お忙しい中学園まで来て頂き、調査等、ありがとうございます。  
この評価をうけ、今後、学園でのより良い運営のヒントとして活用させていただきたいと考えています。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童自立支援施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されたとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○

<input type="checkbox"/>	理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

基本理念や基本方針は、パンフレットや運営計画に記載し、また、「支援のガイドライン」や「業務標準化マニュアル」などで、職員に周知している。入職時に説明する他、12月から2月に、「学園運営の基本方針に基づく取組み状況」をまとめ、年間の評価を行うことで、常に基本理念や基本方針を意識して、支援に取り組んでいる。子どもたちへは、日頃の取り組みの中で伝えるようにしている。保護者へは、子どもの入所時に同行した際に、基本理念などの話をしている。

## 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

年2回、県内3ヶ所の児童自立支援施設が集まり、連絡会を開催している。連絡会には、学園からは幹部職員と現場の職員が参加して、施設運営をとりまく環境の把握に努めている。また、毎月、地域・自立支援グループが「在籍児童の状況」をまとめている。「在籍児童の状況」には、入退所状況や年齢別入所状況、入所理由の状況、障害・疾患の状況などをまとめ、子どもたちの状況を把握している。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

園運営会議を中心にして、各種会議で運営課題を明らかにし、各寮で内容を共有している。職員への周知は、所属ポータル(パソコン)上の掲示板も活用している。なお園運営会議では、園長から職員に話をする時間を設けている。措置費(公費)の中での運営のため、光熱水費の高騰に対して、節約などを呼びかけている。運営課題については、上からの伝達よりも、各寮から上がってくるものが多く、課題に対して具体的な取り組みを進めている。

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
--	--	---

【コメント】

県の社会的養育推進計画（5ヶ年計画）を、園の中・長期計画として位置付けている。社会的養育推進計画を念頭に置き、運営計画に重点取組課題を上げている。本年度の重点取組課題として、①人権に配慮した安心できる生活の保障に関する事、②自立支援に関する事、③専門的支援の推進、④安全と環境に配慮した園運営に関する事、⑤地域に開かれた学園づくりに関する事、⑥健康管理に関する事、⑦食育に関する事の7点をあげ、具体的に取組みをすすめている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

県の社会的養育推進計画（5ヶ年計画）を、園の中・長期計画として位置付けている。社会的養育推進計画を念頭に置き、運営計画に重点取組課題を上げている。本年度の重点取組課題として、①人権に配慮した安心できる生活の保障に関する事、②自立支援に関する事、③専門的支援の推進、④安全と環境に配慮した園運営に関する事、⑤地域に開かれた学園づくりに関する事、⑥健康管理に関する事、⑦食育に関する事の7点をあげ、具体的に取組みをすすめている。取組みの内容は、前年度の年間評価を踏まえて作成している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

運営計画の策定にあたっては、「重点取組課題及び運営計画に対する取組状況のまとめ」として、前年度の運営の基本方針に基づく取組結果や、事業計画、各種委員会等計画、クラブ活動計画についての年間評価や取組結果、懸案事項などの総括の結果を踏まえて、策定している。事業計画は、外部の方を交えた「支援向上委員会」でも評価している。策定した運営計画は、年度頭初の園運営会議で説明し、各寮会議で職員に内容を周知している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

子どもたちには、運営計画のそれぞれの項目について、必要な内容を部分的に説明したり、掲示することで周知している。保護者に対しては、特に運営計画の周知は行っておらず、こういった形で提示するかは、今後の課題として捉えている。

#### 4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	
<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

**【コメント】**

運営計画の策定にあたっては、「重点取組課題及び運営計画に対する取組状況のまとめ」として、前年度の運営の基本方針に基づく取組結果や、事業計画、各種委員会等計画、クラブ活動計画についての年間評価や取組結果、懸案事項などの総括の結果を踏まえて、策定している。第三者評価は3年に1回受審し、それ以外の年は、自己評価表のタイプAとBを交互に使用して、自己評価に取り組んでいる。また、年4回、子どもたちに生活アンケートを実施し、権利擁護委員会が内容をまとめ、寮にフィードバックしている。さらに、外部の方を交えた「支援向上委員会」を中心に、支援の質の向上に組織的に取り組んでいる。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

**【コメント】**

年1回、セクションをまたいだ職員が集まり、「議論の場」を設け職員間で課題の共有化を図っている。また、子どもたちに対して人権的な配慮を行っているか、声掛けや挨拶をきちんと行っているかなど、より良い園運営につながるよう、課題の洗い出しや改善を行い、職員間で内容を共有している。さらに子どもたちへの生活アンケートの結果について、園内の「権利擁護委員会」が内容をまとめ、寮にフィードバックしている。

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

**【コメント】**

運営や入退所、支援向上など、園の方向を決める会議には、園長が出席し、園長の講話の時間を設けている。内容は文書にまとめ、所属ポータル(パソコン)上の職員向けの掲示板にも掲載し全職員が見れるようにしている。また、年1回、地域の方やボランティアが参加する地域懇談会やボランティア懇談会にも園長が出席している。関係機関などに向け、3ヶ月に1回、広報誌「みのり」を発行。年度当初の巻頭言は園長が担当し、「学園が取り組むべきこと」など、今後の園のあり方などを表明している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

県内の社会的養護関係施設の施設長会や、児童相談所の事例検討会などには、園長もでき得る限り参加して、遵守すべき法令を正しく理解するよう取り組んでいる。必要な情報は、朝の連絡会の場などで、園長から職員に周知している。また、地域支援の一環として、「子ども支援講座」を開催している。昨年度は、「子どものアドボカシーについて」、「性加害児童の支援」、「児童自立支援施設に関わる法的知識」などをテーマに、年3回開催し、職員の専門性の充実を図るとともに、関係機関との連携を深めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

毎朝の学校の朝礼には、園長が出席して、子どもたちの状況を把握している。子どもたち全員が参加している野球部や水泳部、卓球部、陸上部などのクラブ活動の様子も、園長が確認しているほか、園外で開催される行事にも、園長が参加している。また、「対話シート」などを用いて、非常勤職員を含む全職員との面接を園長と副園長が行っている。子どもたちの状況を把握し、職員の意見を聞き、支援の質の向上に意欲をもって指導力を発揮している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

運営や業務の実効性を高めるため、職員配置数の見直しを行い、職員が働きやすい環境作りに努めている。現在、各寮とも8人の職員体制で子どもたちを支援しているが、各寮の状況に応じて、適材適所の配置をこころがけるとともに、学習支援員の担当を変えるなど、業務の実効性を高める取組を行っている。子どもの支援に関するトラブルなどに対しては、臨時に権利擁護委員会を開催して、問題に迅速に対応するようにしている。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b

	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員の採用は、県本庁が担当しているが、人材の確保は厳しい状況にある。不足していた心理職員は、来月には人数も揃い、心理面接も適切に実施できる予定である。福祉人材の育成に関しては、日々の業務の中で、寮長やリーダーによるOJT(職場内の指導)をさらに強化していきたいと考えている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

県出先機関のため、総合的な人事管理は県ルールのもとに行われており、毎年、職員自身による自己観察や意向申告などを実施している。人事評価は県要綱に基づいて年1回行われており、要綱などは公開されている。職員のワークライフバランスに配慮して、休日の希望を取り、働きやすい職場作りに努めている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員が働きやすい職場作りとして、育児休暇や子どもの看護休暇などの取得を、積極的に呼びかけている。ほとんどの職員は変則勤務のため、ワークライフバランスに配慮し、勤務の希望を聞きながら勤務表を作成している。また、自立支援課長が、職員の勤務時間や時間外勤務の管理を担当している。年休の取得も励行し、職員の有給休暇の取得状況は良好である。現在、各寮、8人体制で子どもたちを支援しているが、寮長が業務をフォローすることもあり、8人体制でも職員が不足していると感じている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

「対話シート」などを用いて、非常勤職員を含む全職員との面接を園長か副園長が行っている。10月の面接は今後の意向に関する調査であるため、園長か副園長が担当している。その他、職員との面接は、職員の困り感に合わせて随時実施している。職員間のコミュニケーションを大切にして、職員との対話を心掛けている。職員の離職も少ない。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

年間研修計画を策定し、実施している。外部研修には、内容やキャリアなどを確認して、自立支援課長が派遣者を決めている。内部研修は、研修委員会のメンバーが企画、実施している。新卒の職員は、年に1人程度の入職になるが、職場関係が良好であることを心掛けている。期待する職員像としては、お互いの悩みを共有できる職員、コミュニケーションが取れる職員、子どもの状態に合わせた支援ができる職員であってほしいことを、日頃より、園長などから職員に伝えている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

外部研修参加後は、復命書を提出している。復命書は職員に回覧して、内容を周知している。さらに、内容によって、研修報告を行い、職員間で共有している。また、自立支援課長や寮長がスーパーバイザーの役割を担い、職員の専門性や組織力の向上に取り組んでいる。内容によっては、寮を超えての拡大カンファレンスを開催して、他セクションの職員の意見も聞いている。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
---	--	---



<input type="checkbox"/>	実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/>	実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/>	指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/>	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

地域・自立支援グループの職員を担当として、実習生の受け入れを行っている。これまでに5～6校から実習生を受け入れたことがあるが、子どもたちの受け入れ体制や日程などにより、現在は複数名の受け入れに止まっている。昨年度は、保育士や社会福祉士の実習生3名の受け入れを行っている。今後については、依頼先の話聞いて、受け入れを検討していきたいと考えている。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	
<input type="checkbox"/>	ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
<input type="checkbox"/>	第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
<input type="checkbox"/>	法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/>	地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

県のホームページを活用して、運営計画や運営報告など、園の事業運営を公開し、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。また、福祉サービス第三者評価の受審結果も公表している。年4回、広報誌「みのり」を発行し、ホームページ掲載のほか、児童相談所やその他関係機関、保護者に広く配布している。広報誌「みのり」には、園の今後のあり方や各セクションの取り組み、子どもの行事や活動の状況などを掲載している。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/>	施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

県出先機関のため、法・条例などに基づいて運営を行っている。監査は、県監査委員による監査を受けており、その結果は公表されているほか、社会福祉施設として県の指導監査も受けている。

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者評価結果	
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	
<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	

	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

地域のお祭りや地域の障害者グループホームの行事に、子どもたちが参加している。また、月1回、地域に出掛けて、子どもたちが買物訓練を行っている。誕生者外出では、映画を鑑賞したり、買物を楽しんでいる。年10回、理髪の有償ボランティアが来園し、子どもたちと交流している。なお、高等部の子どもたちは、実習先の開拓にも取り組んでいる。園の体育館やグラウンド、プールは、地域開放している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

地域・自立支援グループを担当として、ボランティアの受け入れを行っている。現在、山林・竹林などの環境整備や、子どもたちの衣類の補修、スポーツ活動を通じた子どもたちとの交流、生け花の展示、運動会の踊りの指導、収穫祭模擬店の協力などに、ボランティアの方々が活動している。コロナ禍で活動を中止していたボランティアもあるが、11月開催の収穫祭でのボランティアは今年度より再開の予定である。年1回、ボランティア懇談会も開催している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

本人の将来を決める場として、本人や保護者の他、園職員、学校関係者、児童相談所の職員が集まり、合同ミーティングを開催している。児童相談所とは、定期的に連絡会を開催する他、随時、連携を取るようになっている。アフターケアを含むカンファレンスも実施している。また、年2回、県内3ヶ所の児童自立支援施設が集まり、連絡会を開催している。年1回開催される地域懇談会には、駐在所の警察官など、地域の関係機関・団体にも参加してもらっている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

年2回、近隣の児童養護施設と定期的に施設連絡会を開催し、地域の福祉ニーズの把握に努めている。また、児童相談所とも随時連携し、情報を入手しているが、施設の特性から、日頃の連携の難しさを感じている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域におけるコミュニティーづくりなどの推進に寄与するなどのため、体育館とグラウンドの施設開放を行っている。また町地域防災計画では、救援食料の受入れ場所などとして位置づけられている。

### Ⅲ 適切な支援の実施

#### 1 子ども本位の支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもを尊重した支援は、園の基本理念に明示している。月1回の園運営会議では、園長よりメッセージを発信し、職員が共通の理解を持てるようにしている。各寮の委員が参加する「権利擁護委員会」を定期的に開催し、内容を職員に周知して、人権意識を高めている。また、臨時の「権利擁護委員会」では、看護師や心理士も参加し、「特別支援日課」の個別対応について、支援の内容が子どもを尊重する点に合っているか検討している。さらに、研修委員会により、人権に関する園内研修を実施している。具体的には、年2～3回、子ども支援講座として、外部講師を招き、近隣の児童養護施設職員や児童相談所のケースワーカーにも参加を呼びかけている。この研修では、グループディスカッションで意見交換を行い、人権意識の向上に取り組んでいる。子どもに対しての言葉使いや、常に子どもに「さん」「くん」などの敬称を付けた呼び方ができているかなど、話し合いを行っている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

子どものプライバシーの保護は、「支援のガイドライン」に明記している。「支援のガイドライン」は各寮に置き、必要な時に閲覧できるようにしている。新年度など、あらたに職員が配属された際には、プライバシーの保護について説明している。園見学の際にも、子どものプライバシー保護について説明している。基本的に子どもたちは個室で生活している。居室の小窓には、のれんを付け、プライバシーが守られるよう工夫している。入室時にはノックをして、必ず本人の了承を得るようにしている。浴室は2～3人が入ることができる広さがあるが、密室であること、死角があることなどから、1人ずつ順番で使うようにしている。使用時は履き物を扉の前に置き、使用中であることが分かるようにしている。

(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

園のパンフレットは一般用と子ども用のものを揃え、子ども用に寮のしおりも用意している。保護者や本人に対し、入所に向けて、パンフレットや寮のしおりを用いて概要の説明を行っている。ホームページの他、児童相談所にパンフレットを置き、園の情報が入手しやすいよう取り組んでいる。入所予定の子どもや保護者などには直接、会って話し、実際に園を見学してもらうことを大切にしている。

②	31 支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う支援について子どもが可能な限り主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所時や支援計画の策定に際しては、同意書を得ている。入所後は子どもと話し、学園のルールについて同意を得てから支援している。本人のモチベーションを高めること、本人が感情をコントロールできることを大切に考え、子どもにとってわかりやすい説明になることを心がけている。担当職員より、「なぜここに来たのか」を振り返るとともに、本人の自覚を改めておさらいし、「僕はこれをやっていく」など、具体的にできることを支援計画に盛り込み、子どもの意思を尊重するようにしている。入所時には、子どもたちが決意表明をしている。支援計画は親の課題も含めた家族のプログラムでもあるので、保護者の協力が必要であるが、保護者への説明が十分でない場合があると感じている。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

アフターケア計画などにより、退所後も支援が途切れることなく行われるようにしている。子どもたちは、抱えている課題の解決までに時間がかかる場合も多く、園はあくまでも通過施設であるため、アフターケアに力を入れている。措置変更や地域、家庭への移行にあたっては、児童相談所や関係機関とカンファレンスを行い、情報を共有し、支援が継続して行われるようにしている。退所後は、いつでも連絡していいことを伝えており、近況を連絡してくる子どもも多くいる。本年度は退所した子どもに、生活の乱れがみられ、5日間ほど園に戻って生活の仕切り直しを行う事例もあった。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

定期的に生活アンケートや面接を行い、現状を把握して、問題や支援内容を確認している。必要に応じて、各寮、児童集会所のウィング（左右両側）単位で開かれ、人間関係や生活について話し合う機会を持っている。学年の違いで力の差が出てしまう様子が見られることもあるので、職員が参加し、意見を出しやすいよう配慮している。子どもの意見をきくための「レインボーBOX」という意見箱を各寮などに設置し、子どもたちに周知している。ここには、テレビの時間、食事の内容についてなど、職員が把握していない事柄なども寄せられている。「レインボーBOX」については、園長が毎日、内容を確認し対応している。面接や「レインボーBOX」などであがった意見は、第二又は第三水曜日の各寮会議で検討している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制（苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置）が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート（匿名）を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

第三者委員を置き、3ヶ月に1回、定期的に子どもたちと面接して、子どもが直接意見を述べることができる機会を整えている。今年度、県の子ども家庭課による子どもの意見表明支援事業として、第三者のアドボケーターが来園し、個別やグループの面接で、子どもの生の声を聞いている。子どもたちからの具体的な話は、その後の支援につながっている。解決に向けて、幹部会議や寮会議で話し合いを行っている。声を上げた子どもが傷つくことがないように、十分に配慮して対応している。生活アンケートやレインボーBOXも、苦情解決の仕組みとして機能している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

週1回、寮担当職員が子どもと面接している。面接は、必要に応じて職員を変え、子どもが話しやすいよう配慮している。また、部屋を変えたり、個別で話ができる空間を作るなど、環境を整えて対応している。日頃から、子どもの表情や態度の変化などに気をつけて支援を行っている。泊まり（夜間）の時間を有効に使い、子どもと関わる中で「守られている」という安心感を子どもに持ってもらうよう支援している。学年による力関係、生活がしづらそうな様子はないかなど、寮の中で状態を把握している。また、自分から意思を表明することができない子どもに留意するよう努めている。「レインボーBOX」により、直接、園長に意見が述べられるようにしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

日々、子どもたちと関わる中で、子どもたちの声は、寮日誌や朝の連絡会で職員間で周知している。週1回、子どもと面接し、子どもたちからの相談や意見を聞く機会を作っている。子どもたちの相談や意見への対応マニュアルを整備し、パソコンで内容を共有している。子どもの年齢や特性により、それぞれの寮でルールが異なることもあるが、相談や意見は検討し、実際の支援につなげている。「県大会のスポーツ大会の前に朝練がしたい」との話から、朝練の時間を作って取り組んだこともある。検討に時間が必要な場合は、その状況を子どもに伝えるようにしている。対応ができないことについては、きちんと説明し、理解を得られるよう努めている。相談の内容によっては、児童相談所とカンファレンスを行うなど、連携を図って支援を行っている。対応マニュアルは、毎年、見直しを行っている。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

「クオリティマネジメント委員会」を設置し、各セクションにリスクマネージャーを置いている。委員会では、ヒヤリハットや事故について、原因の分析や再発防止策を検討し、職員に周知している。薬品や工具などの危険物は、職員室内で管理を行い、貸し出し簿を付けて記録している。内服薬は重大事故に繋がるものと考え、服薬状況が分かるよう、薬を入れるトレーを工夫し、服薬時にはダブルチェックを必ず行っている。子どもが暴れたりした時に安全に関わり方ができるように、セラピューティックホールド（心理的、身体的に包み込むホールディングのこと）の研修を実施している。防犯マニュアルも整備している。夜間はシャッターを閉めることや警備保障会社の利用、人感センサーの設置、侵入者への対策などを行っている。日頃より、児童相談所と連携して子どもの状況を共有し、安心して生活できるよう取り組んでいる。所轄警察の協力により、刺股の使い方の研修を実施している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○

<input type="checkbox"/>	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
<input type="checkbox"/>	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
<input type="checkbox"/>	感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/>	感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

おおいそ学園感染症対策マニュアルを整備し、平時における対策や発生時の対応などについて周知している。マニュアルは今年度見直しが行われた。各寮ではマニュアルに沿って、手指消毒やうがい、換気などを積極的に実施しているほか、感染予防グッズを備えている。感染症が発生した場合は速やかにゾーニングするなどの対応を行っている。感染症の拡大対策として、他児（者）との接触を少なくして自室で過ごせるようDVDプレイヤーを用意するなど、子どもの理解を得ながら対応している。なお、常勤看護師1名が配置され、協力しながら子どもの保健衛生などの支援を行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
<input type="checkbox"/>	災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/>	立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/>	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

県出先機関のため、災害時の対応体制や業務継続計画などは県全体の仕組みの中で決められている。毎月、防災訓練を実施している。地震や火災、落雷など想定を変えて訓練を行い、夜間や部活動中、各寮の部屋で休んでいるときなど時間帯を変えて実施し、どのような状況でも対応できるようにしている。各寮の避難場所や点呼方法などを周知徹底している。防災倉庫を設置して防災用品を備蓄している。近年の異常気象などをふまえ、各種ハザードマップの再確認を行っている。風水害を想定した防災訓練について検討している。

## 2 支援の質の確保

(1)	支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	a
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/>	標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

支援のガイドラインを作成し、各寮に置き、職員に周知、日常的にマニュアルが活用されている。ガイドラインは、定期的に見直しを行っている。間違った支援を行うことは、二次被害につながると捉え、支援の組み立てや見直しを定期的に行っている。「レインボーBOX」の活用や子どもとの面接は、提供している支援方法の確認を行う機会となっている。すぐわない支援が実施されていないか、職員相互で気をつけるように取り組んでいる。また、「自律支援委員会」で、マニュアルを使用した研修を行っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
<input type="checkbox"/>	支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○

<input type="checkbox"/>	支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
<input type="checkbox"/>	検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

支援のガイドラインを作成し、各寮に置き、職員に周知、日常的にマニュアルが活用されている。ガイドラインは、定期的に見直しを行っている。間違った支援を行うことは、二次被害につながると捉え、支援の組み立てや見直しを定期的に行っている。支援計画については、担当職員が土台を作り、寮会議などで検討を行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
<input type="checkbox"/>	自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
<input type="checkbox"/>	アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	○

【コメント】

各寮の寮長を自立支援計画策定の責任者として、支援計画策定会議にて、自立支援計画の策定を行っている。策定した自立支援計画は、各寮会議などで職員間で共有し、統一した支援を提供している。支援が難しいケースについては、必要に応じて、心理士や看護師、栄養士などの専門職も参加する拡大支援検討会議を開催し、CBCL(子どもの行動チェックリスト)の結果や支援の方向性など、様々な面から検討を行っている。毎月、精神科医の訪問があり、服薬の調整などの相談を行い、医療面のアドバイスも受けている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
<input type="checkbox"/>	自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
<input type="checkbox"/>	自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は、支援計画策定会議で半年ごとに1回、評価と見直しを繰り返し実施している。自立支援計画に緊急な変更が必要な際にも、支援計画策定会議で検討している。見直しや変更があった場合には、寮会議などで関係職員に周知している。月2回(1日、15日)、子どもたちにアンケートを実施し、他児からの暴言や暴力がないか確認し支援に反映させている。自立支援計画の評価見直しの際には、その内容も計画に反映するようにしている。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○



	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの生活状況は、行動記録や日記に記録し、朝、昼、夜、それぞれの引き継ぎの際に、内容を共有している。文書システムが整備されていて、データベース化することで、必要な情報を職員がいつでも確認できるようにしている。記録の書き方については、基本的な5W1Hでの記録の仕方は周知しているが、十分でない面がみられ、引き続き取り組みが必要と考えている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもに関する記録は、個人情報として法などに基づき「保有・取得」「利用・提供」「保管・管理」などを行っている。管理体制として、保護管理者と保護担当者を置き、県庁所管課による監査が行われている。情報の開示については、希望があれば、開示を行っている。進路や職場実習、職場体験など、個人情報を必要とすることがあり、その場合に口頭でのお知らせを行ったりすることがあるが、必要な場合には、個人情報の取り扱いの協定を結び対応している。児童相談所を通して、保護者の同意を取り、起案を行っている。行動記録については、1ヶ月ごとにまとめ、個人ファイルに綴じ込み、保管している。在籍児童のファイルは、職員室内のロッカーに施錠して保管している。ロッカーの鍵は二重ロックになっており、中が見えないようフィルムを貼るなど、配慮している。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

「支援のガイドライン」を整備している。職員の入職時には、課長から子どもの権利についてなど、ガイドラインに沿った説明を行っている。また、年間の研修計画に、権利擁護に関する研修を計画している。子ども1人に対し、担当職員を1人決めて、寮内生活での状況について、子どもから聞き取りやアンケートを行い、権利侵害の早期発見に努めている。「レインボーBOX」（投書箱）を各ウイングに設置し、原則として毎日、園長が確認している。職員が関わっている事案には、園長から職員に状況を確認をしている。

②	A2 子どもの行動制限等は、その最善の利益になる場合にのみ適切に実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として、子どもの行動制限等についての規程やルール、マニュアル等を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの行動制限等は、規程やルール、マニュアル等に即して行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程やルール、マニュアル等を定期的に検証し、必要な場合には見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの行動制限等について、職員間で検証・検討する場を設ける等により理解の共通化やより良い対応に向けた取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの行動制限等を行った場合、必要に応じて児童相談所等に報告している。	○

【コメント】

子どもの行動制限などについては「特別支援日課に関する取扱要領」を定めている。また、寮長、各寮職員、地域・自立支援グループ職員を構成員とする権利擁護委員会を設置しており、園長、副園長、自立支援課長、心理士がオブザーバー参加している。子どもが暴力をふるってしまった、無断外出が起こった場合などに委員会を開催して子どもへの対応や行動制限をどのようにするかなどについて検討し、本人と話し合った上で特別支援日課を実施している。実施後は、記録・報告を行い、必要に応じて児童相談所などに連絡するなどの対応を行っている。要領などは共通認識ができるよう職員に周知している。

③	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるように子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で起こる出来事を通じて、子どもの自身や他者の権利について正しい理解につながるよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの状態に応じて、権利と責任の関係について理解できるように説明している。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員研修として、子どもの権利に関する学習機会を持っている。	

【コメント】

入所時、子どもには児童相談所のケースワーカーから「子どもの権利ノート」の説明があり、入所後も日常の面接の中で説明を行っている。日々の生活の中では折に触れ、やってよいこと、やってはいけないことを説明している。各寮で「児童集会」を開催し、相手に対しての言葉使いが強い、相手はどう思うかなど、具体例から自分の権利や相手の権利について話し合う機会を設けている。また、個人面接のときにも、生活の中で守らなければならない権利について話し合いを行っている。

(2) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	

	<input type="checkbox"/> 不適切なかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○

【コメント】

「支援のガイドライン」に、子どもへの関わり方を明記し、全職員に周知徹底している。子どもたちへの言葉使いや態度は丁寧であり、不適切といわれる体罰や強要、無視などは行われていない。園の敷地が広いので、死角が多く、子どもたちの動きには常に複数で確認できるように、職員の配置に配慮している。子どもがパニックになった時などに、職員が叩かれ、怪我をしたり、暴言を言われたりすることがある。職員は子どもの行動だけで判断せず、行動の裏に何が合ったのかを受け止め、落ち着くまでしっかりと向き合っている。子どもへの対応で疲弊してしまう職員もおり、職員のケアに心理士が関わることもある。

(3) 子どもの主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A5 子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちが施設の行事・余暇活動の企画・運営等にかかわることができる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが生活上の問題や課題について主体的に考え、その上で取組、実行、管理するといった内容を含んだ活動をしている。	
	<input type="checkbox"/> 生活全般について、日常的に話し合う機会を確保し、生活改善に向けての取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた生活習慣や生活技術の習得に向けた支援を行っている。	○

【コメント】

園の特性上、規律を守る生活を送ることが大きな目的ではあるが、各寮の「児童集会」では、子どもたちの希望などを話し合い、可能かどうかを皆で検討する機会を設けている。深夜のTVが見たいなどの希望が出ると、職員が事前にTVの内容をチェックし、特に問題がないものであれば録画して提供し、子どもたちの希望をかなえるようにしている。各寮では毎月、シャンプーやリンスなど、生活用品やお菓子などを購入する「買物訓練」を行っており、社会生活の体験の中から、生活技術を身に付けられるよう支援している。

(4) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どもが安定した生活を送れるよう退所後も継続的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの自立のための通所支援を積極的に実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて訪問による支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの来所を温かく受け入れ、自立を励まし、支援する取組を行っている。必要な場合は短期間の宿泊による支援を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所した子どもの自立のための通所による支援を実施するうえでの課題や条件整備について前向きに検討している。	
	<input type="checkbox"/> アフターケアは施設の業務であり、退所後何年たっても施設に相談できることを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況を把握し、退所後の記録を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、児童相談所と協議の上、市町村の担当課と情報共有し、地域の関係機関、団体等と積極的な連携を図っている。	

【コメント】

退所した子どもには、寮の担当職員が「アフターケア計画書」を作成し、退所後1、3、6、12、24ヶ月毎に情報を収集し、必要に応じて支援を行い、その結果を、「アフターフォロー報告書」として保管している。卒園後、一人暮らしで自立することは難しく、児童相談所やあすなろサポートステーションなどの協力が必要である。毎年1月に園で行われる収穫祭を楽しみにしている卒園生も多く、開催日を確認してくる子どももいる。卒園しても、子どもたちからは様々な相談があり、そのつど支援を行っている。

## A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもと職員の信頼関係を構築し、家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、子どもたちが日常生活の中で「大切にされる体験」を積み重ね、信頼関係や自己肯定感を取り戻すことができるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに安心・安全な生活を提供して不安の解消を図るとともに、子どもの良さ、強み、潜在的な可能性を見つけるなど、子どもに対する受容的・支持的なかわりを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちがお互いにその人格を尊重し、お互いの長所を認め合い、助け合うことのできる良質な集団づくりを行うなど、集団生活の安定性を確保するための取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもと良好な関係が持てるよう、職員と子どもが個別的にふれあう時間を確保したり、施設全体の行事とは別に小集団での行事等を子どもと計画を立て実施するなどの工夫がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの集団生活の状況に応じて、臨機応変に生活の内容を変えて対応している。	○
【コメント】		
児童相談所からの入所依頼は、支援課長が窓口になりケース情報を入手し、受け入れのため、寮長や担当職員が児童相談所に行き子どもと面接している。その後、子どもに見学に来てもらい、入所が決定となる。入所の際は入所式を行い、児童相談所のケースワーカー、心理司、前籍校の担当教員、保護者、園幹部、寮担当者などが参加している。なぜここで生活するのか、目標をもって生活をしていくことを確認し、参加者の皆から応援コメントをもらい、一人ではないことを感じてもらっている。園生活では、職員及び分校の先生と個別的にふれあう時間が多く、大人との信頼関係が持てるよう支援している。入所式により、自分は大人を信用し、安心した生活ができることを確認している。寮では集団生活を行い、規律ある生活の中で、仲間や職員と信頼関係を作り上げている。		
②	A8 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。また、子どもたちにわかりやすく具体的に文書等で示している。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への参加等を通じて、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが個々のニーズに応じて主体的に余暇活動などを行い、それを通して、協調性や社会性を養うように支援している。	○
【コメント】		
今後の自立した生活を目指し、規律ある生活の中で、日課が決められている。起床後のラジオ体操、朝のマラソン、清掃、園内の分校での学習、園内での農作業など、一日のプログラムが決められている。そのような生活の中で規律を守ること、約束を守ることなどを体験している。また、季節に合わせ、野球や卓球、水泳、陸上クラブを行い、ルールなどを体験をしている。高等部の子どもはお寺清掃のボランティア、アルバイトなどで、社会体験を行っている。職員も子どもたちと一緒に働き、運動をするなど、身体的な面での支援に加え、心理面での関わりを持ちながら支援している。		
③	A9 自らの加害行為に向き合うための支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 加害行為を行った子どもが自分の行為を振り返り、きちんと向き合うための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 振り返る際、行動上の問題が発生した要因等について自己理解を深め、その軌道修正をはかることができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> この取組を通して成長できたという成長感や自己肯定感などを育成できるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所後の行動上の問題への対応について、職員間でケース会議を行い、検証を行っている。	○
【コメント】		

自らの加害行為については、入所式をはじめ、職員による自立支援計画の作成時や、子ども自身による「おれの自立計画」の作成時に向き合っている。自分の行為に向き合い、今後どのように生きるか、目標を決めた生活を確認して、振り返りを行いながら、日々の生活を送っている。寮職員や心理士、学校の教員、栄養士、調理員など、すべての職員が、専門的立場から支援を行っている。児童相談所のケースワーカーや心理司、園の心理士などによる面接を密に行い、振り返りの機会を持っている。また各種会議、ケースカンファレンスなどで、職員は子どもの状況を確認し、検証を行いながら支援にあたっている。

(2) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身に付けることができるよう食育を推進し、団らんの場として明るく楽しい雰囲気の中で食事ができるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個人差(年齢、障害等)や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事を美味しく食べられるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○

【コメント】

よく働き、よく食べ、よく寝ることを生活の基本に置いている。平日の昼食は、園内の学校から直接、食堂に集まって全員で食事を摂り、食後一旦寮に戻り午後から再登校している。朝、夕は、子どもたちが厨房から副食を寮に運び、寮で子どもたちが炊いたご飯で食事している。栄養士がバランスよい献立を立てているが、「うMyメシプロジェクト」として、各寮で食べたいメニューを考え、栄養士に提出して献立に入れてもらい、楽しんでいる。また、月1回誕生会を開き、誕生者を祝いながら特別メニューを提供している。さらに、日本の地図を貼り出し、その県の名物献立も提供し、全国の料理を制覇する楽しみを作っている。誕生会には西洋料理や中華料理など、豪華な料理を楽しんでもらったり、おせち、子どもの日、七夕などの行事食も提供し、季節感を味わってもらっている。子どもたちの農作業で収穫した野菜を使っの料理も楽しんでいる。初めて食べるメニューなどを提供し、子どもたちの心の豊かさを増やしている。

(3) 日常生活等の支援

①	A11 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用し、衣習慣を習得できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 破れやほつれなどの修繕が迅速に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れが無いものが着用されている。	
	<input type="checkbox"/> ボタン付けや簡単な修繕ができるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 用途や体に応じた靴を提供し、清潔な靴を大切に使う習慣を身につけられるよう支援している。	

【コメント】

園の生活では、個人が持参した物を着ているが、学校の制服や体操服などは、園で貸し出している。園内では学園日常生活に適したものを着ることが多く、汚れたものは洗濯棟に出し、寮内では自分の下着などを洗濯して、清潔を保っている。誕生日外出の際には、好きな洋服を買うことがあるが、派手な物やダメージジーンズなどではなく、落ち着いた色やデザインのものを選ぶよう指導している。高校入学の際の制服は、原則として個人で購入してもらっている。ボランティアに、寮で使用する足ふきマットや雑巾などを作ってもらっている。

②	A12 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 建物の内外装、設備、家具什器、庭の樹木、草花など、子どもを取り巻く住環境から、そこにくらす子どもが大切にされているというメッセージを感じられるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが私物を収納できるよう、個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、軽度な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 居場所となるように家庭的な環境としてつづげる空間などを確保するように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるようになっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、子どもの状況に応じて配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 疾病時などに静養できる個室や特別な部屋等を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 着替えなどプライバシーを守れる環境を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> TV、DVD、音楽プレイヤー、楽器や本など子どもが楽しめる環境を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが安心して十分に睡眠がとれるように配慮している。	○

【コメント】

三つの寮がそれぞれ独立した棟になっており、一つの寮は職員室を挟んで二つのウイングに分かれている。子どもたちの居室は、全室個室となっており、プライバシーが保たれている。居室にはベッドや机、クローゼットが備えられており、子どもの好きなぬいぐるみなどの私物が置かれている。各寮は子どもたちが掃除をしているが、園舎が老朽化しており、修繕をすることが多くなってきている。また、猛暑の中、扇風機での生活であり、暑くて眠れない夜は、職員が保冷まくらや氷枕などを用意して熱中症対策を行っている。

③	A13 スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> スポーツ活動(クラブ活動)は、身体能力を育てるだけではなく、忍耐力、責任感、協調性、ルール(規範)を身につけ、自己肯定感を醸成する機会として実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの興味、好みを可能な範囲で取り入れ、体制を整えて支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた内容が取り入れられ、子どもが達成感を得られやすい目標設定で支援している。	○
	<input type="checkbox"/> ルールを尊重するとともに、子ども間の協力やチームワークなど、子どもの社会性の発達を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自主性や自発性を持った活動を行い、最後までやり通せるように支援している。	○

【コメント】

野球や卓球、水泳、陸上のクラブがあり、季節に合わせ、すべての子どもが同じクラブに入って活動している。クラブでは、楽しさと同時に、礼儀や挨拶、ルールを守るなどを体験している。園内の敷地は、東京ドーム2.7個分の広さがあり、大きなグラウンドやプール、体育館を備え、スポーツ活動には十分な広さがある。野球は全国大会で3位になったり、今はマラソン大会に向けて子どもたちが練習している。また、クラブ以外でも、毎日、朝マラソンをグラウンドで行い体力をつけている。分校では海で拾ってきた貝殻や流木などを使った創作作品、粘土細工など、創作活動も行っている。

(4) 健康管理

①	A14 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
---	---	---

	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、服薬や薬歴のチェック等を行い、日頃から注意深く観察している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。また、あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの心身の異常の訴えに適切な対処を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> インフルエンザの予防接種など接種できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保健師や養護教諭(分校等)と連携をとっている。配置のない場合は配置に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的な健康チェックを実施するなど、子どもの健康状態・発達状態の把握や健康管理に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

寮内では、指導員が子どもの健康状態を日々確認しており、看護師と協力して健康管理を行っている。医師による定期的な健康診断や予防接種を受けている。感染症対策マニュアルを整備し、感染症の好発時期は特に感染防止対策に配慮している。感染症が発生した場合、個別に隔離ができないため、ウイング閉鎖で感染拡大を防いでいる。服薬が必要な子どもがおり、服薬マニュアルを整備して支援を行っている。

②	A15 身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 医療機関との連携による取組を通して、子ども自身が身体の健康や安全を自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的な理美容をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 軽いケガや疾病などの処置ができるような体制を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な疾病やケガに関する知識や対処方法を学ぶ機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 施設内における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

身体の清潔を保つため、基本的な手洗いやうがいの励行など、何度も声掛けを行っている。腕を骨折した子どもが、足を使ったサッカーならと言ったりするので、なぜ安静にしなければいけないか丁寧に説明している。食事、睡眠は十分に管理できている。入浴は以前は数人で行っていたが、性的問題があり、現在は個浴としている。低学年で入所した子どもで、一人で入浴をしたことがない子どもには、話し合いを行い、水着を着て職員と一緒に入り、洗い方の指導をしたりしている。刃物の持ち込みは禁止しているが髭剃りや鋏などは、職員監視のもと使用している。農作業に使用する鎌やスコップなどは、十分な監視のもと使用している。リストカットをする子どもは、今はいない。

(5) 性に関する教育

①	A16 性に関する教育の機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	

<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を理解する機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 児童自立支援施設に相応しい性教育についての職員の学習会を実施している。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招いて、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	
<input type="checkbox"/> 日頃から職員の間で児童自立支援施設に相応しい性教育のあり方等について意見交換している。	

【コメント】

こどもの入所理由は、窃盗の次に性加害が41%となっており、「おれの自立計画」の中でも、感情をコントロールすることの弱さを自覚している子どもが見られる。園では、生活の中で規律を守ること、相手の気持ちを考えること、がまんをすることなどの支援を行い、やってはいけないことに対して、感情をコントロールできるよう指導している。性教育に関しては、児童相談所による「性加害防止プログラム」を、児童相談所のケースワーカーや心理司が実施している。ほとんどの子どもが参加している。

(6) 行動上の問題に対する対応

①	A17 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の密室・死角等の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は観察を密にし、個別支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害の発生予防に努め、発生した場合においても適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員では暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力防止プログラムの活用など、子どもに対して暴力防止に向けた支援を展開している。	
	<input type="checkbox"/> 施設内での重要なルールとして「暴力防止」を掲げ、日頃から他者の権利を守ることの大切さを子どもと話し合う機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成や部屋割りなどには、子ども同士の関係性に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめについての対応マニュアルを作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの遊びにも職員が積極的に関与するなどして子ども同士の関係性の把握に努め、いじめなどの不適切な関係に対しては適時介入している。	○

【コメント】

暴力は絶対いけないことを、さまざまな機会を通して伝えている。しかし、職員の見えていないところで、陰湿ないじめなどが起きることがある。その防止のために、寮内では、子どもの個別の聞き取りを頻繁に行っており、情報を入手している。「A君がB君に〇〇された」などの情報があった場合は、お互いの個々の面接で事実確認をし、その後に話し合いの場を持ち、解決したりしているが子どもの特性で、てきばきと行動できない子どもに対して、文句を言ったりすることがある。子ども同士のトラブルは、小さなことも職員は見逃さず、対応している。

②	A18 子どもの行動上の問題に適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、子どもの特性等あらかじめ職員間で情報を共有化し、連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急事態に対する対応マニュアル等を作成し、組織的な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設が、子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについては、問題となる行動を観察・記録するとともに子ども本人からの訴えを傾聴し、発生の要因やメカニズムなどについて子どもと共に分析して、子どもに説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な支援技術を習得できるようにしている。	○



<input type="checkbox"/>	□他の子どもの安全、安心な生活を破壊し、施設の生活を成り立たせなくする暴力行為等に対し、施設全体で対応する仕組みを設け、周囲の子どもの安全を図る配慮をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□集積した子どもの行動上の問題に対して、多角的に検証して原因を分析したうえで適切に対応し、また、記録にとどめ、以後の対応に役立てている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□児童相談所、警察機関などの関係機関と日常的に連絡を取るなど、緊急事態への対応が円滑に進むよう対策を図る。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□関係機関を含めてケースカンファレンスを実施し、その対応策などについて検証している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□影響を受けた子どもへの配慮ある支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

暴力や暴言、無断外出、パニックなどが見られることがある。行動上の問題はその子どもの心の叫びであり、何で苦しんでいるのかを子どもに寄り添って対応している。無断外出などのルール違反の場合は、毎日の引継ぎで状況を報告し、臨時的権利擁護委員会を開催して、行動制限を行う場合がある。その後、本人と面接を行いながら、今の気持ちを振り返り、今後どうしていくかを作文にまとめるなどの指導を行っている。行動上の問題が起きる時は、子どもの心の中で何らかの思いが爆発した時であるため、思いを受け止め、その思いをどのように解決していくか指導を行っている。

(7) 心理的ケア

①	A19 必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□心理的なケアを必要とする子どもには、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理的な支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どものニーズに応じて、有効なプログラムを柔軟に組み合わせたり修正したりして、心理的な支援プログラムを作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□心理的な支援プログラムにおいて個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的な支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□日常生活の中で、心理的な支援が行える体制ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子ども個々に心理的ケアの担当者を決め、定期的に心理的な支援を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□定期的かつ必要に応じて心理検査などを行い、ケースカンファレンスを通じて、ケア効果について評価し、見直しを行いながら、継続的に心理的な支援を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□良質な生活環境づくりを行い、施設での生活そのものが心理的ケアとなるような生活環境の提供に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在、常勤の心理士が1名、非常勤の心理士が2名配置されている。すべての子どもに心理的対応が必要であり、また、日常生活の中で心理的な関わり方を職員にアドバイスするため、心理士が各寮のケースカンファレンスにも出席している。子どもたちには定期的にカウンセリングを行い、プレイセラピーなどを実施している。心理士がプログラムを作成するのではなく、子どもが発する言葉や行動から、何がこの子どもにとって最良の関わりかを見極めて対応している。大人から心に傷を受けて入所している子どもが多く、信頼できる大人がいて、安心した生活を体験できるよう、心理面の支援を行っている。

(8) 学校教育、学習支援等

①	A20 施設と学校の緊密な連携のもと子どもに学校教育を保障している。	a
<input type="checkbox"/>	(学校教育が実施されている場合) □日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□原籍校と連携を図り、子どもが不利益をこうむらないように、学習進路等の支援を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□施設と学校が個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□学校で生じた行動上の問題に対しては、学校と協力して対応している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 学校との協議に基づき、子どもの個々の学習計画を立て、それに応じて支援し、計画の見直しを行っている。	
<input type="checkbox"/> 施設は子どもにとって学校で認められ、活躍できる居場所となるように支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 個別ケース会議には、原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	
<input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は、退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○
(学校教育が実施されていない場合) <input type="checkbox"/> 原籍校と連携を図り、子どもが不利益を被らないように、学習・進路等の支援を行っている。	
<input type="checkbox"/> 学校教育を実施する際の課題等を検討するなど実施に向けての取組を真摯に進めている。	○
<input type="checkbox"/> 学校教育が実施されていないが、教育内容等は子どもの最善の利益のために十分な配慮を行っている。	
<input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○

【コメント】

地域の小・中学校の分校として敷地内に学校があり、毎日寮から登校している。昼食は、園の食堂で食事している。午後は再び寮から登校して授業を受けている。学校教育は教員も手厚く、個々に合った教育を行っている。学校行事として、写生大会や校外学習、修学旅行などを行っている。園との共催で、文化祭や収穫祭なども行っている。また、状況に応じて園から高校に通学する子どももいる。

②	A21 学習環境を整備し、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学習ボランティアや学習塾など社会資源を活用して学習支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 就業に結びつく資格取得や検定を受ける機会を設けている。	

【コメント】

寮のリビングには、学習のための書籍を置いている。寮では自習時間を設けており、漢検や英検受験に向けての学習や、また、中学3年生は高校受験に向けての学習を、学習指導員や夜勤の職員などより受けている。現在は中学卒業での就職希望者は少なく、ほとんどが高校受験を希望し、受験に向けての学習に励んでいる。

③	A22 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して自立に向けた支援に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	
	<input type="checkbox"/> 各種の資格取得を積極的に奨励している。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習に対する施設としての取組について、規定を設けるなどして、職員が共通認識をもって、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが、作物などの育成過程を通して、協働して作業課題を達成する喜びを体験し、勤労意欲の向上、心身の鍛錬を図れるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 仲間との共同作業などを通して、人間的ふれあいや生命の尊厳及び相互理解を深め、社会性や協調性を培うように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 働く体験を積み重ねることで、根気よく最後まで取り組む姿勢など社会人として自立するために必要な態度や行動を育てている。	○

<input type="checkbox"/> 自然の環境の中での作業体験を通して、情操の育成が図られるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 作業カリキュラムが策定されている。	
<input type="checkbox"/> ソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に実施している。	

【コメント】

園内での作業は農作業が多く、近くの牧場から肥料を運んだり、農作物の収穫や運搬などを行っている。畑は山の上であり、景色の良いところで農作業を行っている。現在はダイコンやニンジン、白菜、キャベツ、ブロッコリーなどを栽培し、夏にはキュウリやトマトの栽培など、多くの野菜を扱っている。敷地内の山にはイノシシや鹿、アライグマなどがおり、野菜が被害にあうことも多い。銀杏やキウイフルーツなどの収穫も行っている。園内での作業体験の他、高等部の子どもは近くの店舗のアルバイトなどで職業体験をしている。また、解体作業に従事し、ボランティアから就職につながったケースもある。

④ A23 進路を自己決定できるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、必要な資料を収集、多様な選択肢と判断材料を示して子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	
<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、施設入所を継続し、子どものニーズに応じた社会経験を積めるように配慮し、進路支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業予定の子どもが入所している場合、進路支援をしている。	
<input type="checkbox"/> 進路支援カリキュラムが策定されている。	
<input type="checkbox"/> 退所後に不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用し、進学あるいは就職した子どもや継続して自立支援を必要とする子どもに対しての支援を継続している。	

【コメント】

ほとんどの子どもが高校進学を希望しており、卒園してどこから高校に通うかが一番の問題となる。園を出て家から高校に通うか、他施設に移って高校に通うかなど、中学2年生くらいから相談をしている。どこから通うかが決まると、高校の場所やレベルなどを決めるための話し合いを何度も重ねていき、自分で最終決定をして、目標に向かっての生活が始まる。状況に応じて、園から高校に通う子どももいる。

(9) 親子関係の再構築支援等

① A24 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、アセスメントに基づく家族支援の計画が記載されている。	
<input type="checkbox"/> 家族支援の計画は、保護者や児童相談所などの関係機関等と協議して策定され、必要に応じて見直している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 親子の関係改善を目的に、日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を家族に随時知らせたり、施設行事などへの参加を積極的に促し、その際、受容的なかわりを心掛けて、信頼関係を築くようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅は、子どもと保護者等との協議によって目標を立て、必要に応じて児童相談所とも連携して実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の安定した関係に配慮し、保護者等の養育力の向上に資するよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家族の抱える課題に対して、児童相談所と連携しながら、または独自に、保護者等と定期的に面接やカウンセリングあるいは家族支援プログラムを行うなど、具体的な支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家族関係の支援は、基本的に児童相談所が行っている。家庭に戻る可能性がある子どもは、児童相談所のケースワーカーが働きかけ、合同ミーティングを行っている。児童相談所のケースワーカーや心理司、学園担当者、学校関係者、本人、家族による話し合いを行い、退所に向けての訓練を実施している。親との面会や外出、短期宿泊での様子観察により、受け入れが可能であれば退所となり、自宅引き取りが行われる。しかし、家庭内の問題から入所してきた子どもが多く、家族関係の再構築は困難なことが多い。

(10) 通所による支援

①	A25 地域の子どもに対する通所による支援を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 通所支援に必要な予算・人員等が確保されている(又は、予算・人員等の特別な確保はないが、既存枠内で対応できている)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援専用の施設設備が整備されている(又は、既存施設の有効活用により対応している)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援が、施設の「事業計画」に規定され、組織的な取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援により、地域の子どもに対して医療的・心理的ケア等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【コメント】

地域からの通所支援は行っていない。園では規律のある生活を行うことにより、子どもの育てなおし支援を行っているため、家からの通所とは目的が異なるため行っていない。